

ReMORI MONTHLY /

2023年9月号
vol.15
INゆすはら

林業情報を発信！
りもりマンスリー

東京で森林を語ろうツアー

梶原の高校生3人が梶原町と関わりのある環境先進企業を初訪問！
下村 智也 | p.02~03

若き日の林野庁長官

梶原町に所縁ある青山氏が林野庁長官に就任
笹岡 高志 | p.04

01 REMORINEWS



地域おこし協力隊 9月から1人増員！

ReMORIの地域おこし協力隊員が1人増えました！
栃木県日光市出身の吉井 香在（よしいたかあき）さんです。
9月1日から着任し、お住まいは四万川地区。
山が好きで自然と接する機会が増え、林業にも興味を持たれた
とのこと。自然と水が美しい梶原町での暮らしにも期待を膨ら
ませているようです。
音楽や写真がご趣味で、町内の自然散策もしていきたいとのこ
とですので、お見かけした際はどうぞ宜しくお願い致します！



梶原町森林再生プロジェクト
「りもりチャンネル」

りもりの活動やイベント風景、協力隊
のPR動画などを配信中！



KIRecub-きりかぶ-チャンネル

新たに立ち上げました！活動風景やイベ
ントの様子などを配信予定！



03 Instagram

ゆすはら地域おこし協力隊

りもりメンバーが林業を通して梶原町の魅力を発信中！



下村智也



山口佑貴



長谷川夏輝



荒木俊充



吉井香在



Coming Soon

KIRecub-きりかぶ-

造林事業をメインに立ち上げた組織「KIRecub（きりかぶ）
有限責任事業組合」です。林業がもっと面白く活気のある
産業になるように様々な事業も展開していきます。



ゆすはら森のおさんぽ会

梶原の豊かな自然を活かした、自主保育型「森のようち
えん」活動。協力隊の荒木俊充が妻とともに、4歳と1歳
の子もたちを連れ、町内各地で活動中。参加者随時募
集中！0歳からごなたでも参加していただけます。一緒
に自然を満喫しませんか？



WOODNEIGHBORS-ウッドネイバーズ-

協力隊を卒業した角金玄が個人事業主として開業。
ロープクライミングで樹上へアクセスし住宅や公共施設、
神社仏閣などの樹木の伐採(剪定)を事業としています。



Coming Soon

Coming Soon



◆ 編集・発行：梶原令和の森林づくり協議会 ReMORI-リモリ- 長谷川・笹岡

◆ お問い合わせ：森林の文化創造推進課 ◆ お電話：0889-65-0811

お気づきの点、ご意見・ご要望がございましたら上記までご連絡ください。

東京で森林を語ろうツアー

このツアーは今回初の取り組みで、梶原森林づくり大学構想事業の一環として、梶原高校の生徒に対して、梶原町と共に協働の森林づくりを推進いただいている、環境先進企業の東京都内にあるオフィスビルを訪問し、企業の方々に企業人としてのお話や仕事内容、森林づくりの意義等のお話を直接、伺い学んでもらうことを目的としています。8月29日(火)~31日(木)の夏休み期間中を使って、2泊3日のツアーに参加を希望した、梶原高校の生徒は、吉岡優良さん(3年生)・岡村彩菜さん(2年生)・古塚千尋さん(1年生)の3名。引率は、森林の文化創造推進課の立道課長、ゆすはら地域おこし協力隊・KIRecub(-きりかぶ-)の下村です。

ツアー1日目、最初の企業は矢崎総業(株)様を訪問しました。事前に高校生にも名刺を作成してもらっていたこともあり、初めての名刺交換タイムと自己紹介に3人ともドキドキ、初々しさを感じました(笑)。矢崎総業の前原氏・木村氏から「都会を見ながら梶原町を改めて知っていく」をテーマに会社紹介、梶原町との取り組みをご説明して頂きました。質問の時間では、3人とも積極的に質問をしていて、矢崎総業と梶原町のこれまでの活動に興味津々でした。最後には持続可能なまちづくりを目指すことをテーマに、マインドマップ(キーワードやイメージを書き出し、その関係性を線でつないだ図)を作成後、各々で



初めての名刺交換を経験！



前原氏、木村氏による取り組み紹介



プレゼンの姿、堂々としてました！

梶原町の魅力や改善点などについて発表をしてもらいました。3人とも緊張しながらも梶原町の未来について真剣に考えて、堂々と企業様にプレゼンする姿が印象的でした。



矢崎総業の前原氏、木村氏と一緒に

その日の夕方からは、明星高校の生徒で、高校生ボランティア団体『未来守』に所属する都内の高校生と交流会のため、一般財団法人日本青年館にお邪魔し、それぞれの活動内容の発表や夕食を取りながら高校生同士で意見交換会を行いました。全く違う土地で育った生徒同士が意見交換をする場はなかなか珍しく、お互いに刺激を受けたようで、今後も梶原町と東京を行き来する交流会を開催したいと話していました。



「未来守」の皆さんと一緒に

ツアー2日目の午前中は、長瀬産業(株)様を訪問しました。2日目となる名刺交換や自己紹介にもだいぶ慣れてきたようで3人の成長を感じます。長瀬産業様からは会社紹介、梶原町との取り組みを主にお話して頂きました。長瀬産業様は、2022年8月から脱炭素先行地域としても認定されている梶原町と協定を結び、J-クレジット(森林クレジット)創出の実証に取り組んでいます。3人ともJ-クレジットと



長瀬産業様のオフィスにて

いう制度を初めて聞き、手入りのされた豊かな森林資源のある梶原町だからこそ、成り立つ制度だと理解したようでこの日、一番メモを取っていました。長瀬産業の成田氏は、「高校生からの鋭い視点や質問にも驚かれており、新たな視点からの意見は凄く刺激になってありがたい」とおっしゃっていました。

森林クレジットとは？

適切な森林管理によるCO2などの温室効果ガスの吸収量を「クレジット」として国が認証する制度で、間伐や植栽をはじめとする森林資源の適切な管理、活用を目指す自治体や、カーボンニュートラルに取り組む企業で積極的に利用されています。



長瀬産業の皆さんと一緒に

午後からは梶原町にもご縁のある建築家の隈研吾氏が設計した、新国立競技場の見学をしました。ここの材に梶原町の木が使われているよと話をすると、高校生達がどこに使われているか一生懸命探している姿が可愛かったです(笑)

その後、一般社団法人モア・トゥリーズ様を訪問させて頂きました。モア・トゥリーズの水谷氏からは、森林が減ることで地球にもたらす影響など、世界的な例を挙げてご説明して頂きました。植物油脂(パームオイル)を摂るために熱帯雨林の伐採が進み、オランウータンの個体数が減少している話や、生物多様性の損失を止め、回復傾向へと向かわせる「ネイチャーポジティブ(自然再興)」の話は、高校生達も考えさせられる内容だったようです。その後もモア・トゥリーズ創立者の坂本龍一氏逝去を受けスタートした《TREES FOR SAKAMOTO》についての話や森林×WEB3.0(ブロックチェーン)を使った取り組みなど、今後、梶原町を中心に進められていくプロジェクトに3人とも熱心に耳を傾けていました。



モア・トゥリーズ様のオフィスにて

《TREES FOR SAKAMOTO》について

モア・トゥリーズ創立者の坂本龍一氏逝去を受け、植樹のためのドネーションプラットフォーム《TREES FOR SAKAMOTO》が立ち上がりました。第一弾の寄付先として世界中で5つの地域が選ばれ、日本から唯一、高知県梶原町が選定されています。

ツアー最終日は、100年前に植樹された人工の森、明治神宮の杜を視察しました。東京生活3日目となると高校生達も満員電車で揺られ、照りつける日差しによる都会の異常な暑さで、ヘトヘトの様子でした。そうしたなか、最後の視察先、明治神宮の杜に一歩足を踏み入れると、全員空気が変わったことに気付き、一斉に「涼しい、さっきまでと空気が全然違う!」という言葉が聞けました。←引率のおじさん達はその言葉が聞きたかった!笑

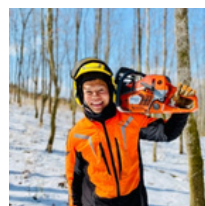
今回のツアーは梶原町の森林からはじまり、都会をみて、明治神宮の杜で終わる。普段当たり前前に感じていた梶原の景色は、逆に東京の方からみると、貴重な経験と体験であるという事を改めて知る機会になったはずです。帰りの空港では、高校生達が企業の方々とお話できた事を非常に喜んでいて、「梶原や森林の価値が理解できた」「梶原に早く帰りたくなった」と語ってくれただけで、このツアーを開催して本当に良かったなと思いました。私自身、今回ツアーの参加に勇気を持って手を挙げてくれた高校生から学ばせてもらうことが沢山ありました。ありがとうございました。

高校卒業後、一度は町外に出ることがあるかもしれませんが、梶原の地で育ち、学んだことに誇りを持ち、また帰ってきて梶原の豊かな資源を活かしたチャレンジをしたいという、学生が今後出て来てくれたら嬉しい限りです。このツアーが引き続き開催されることを切に願っています!!



3日間のツアーお疲れ様でした!最後は明治神宮にて

今回のREPORTER-リポーター-



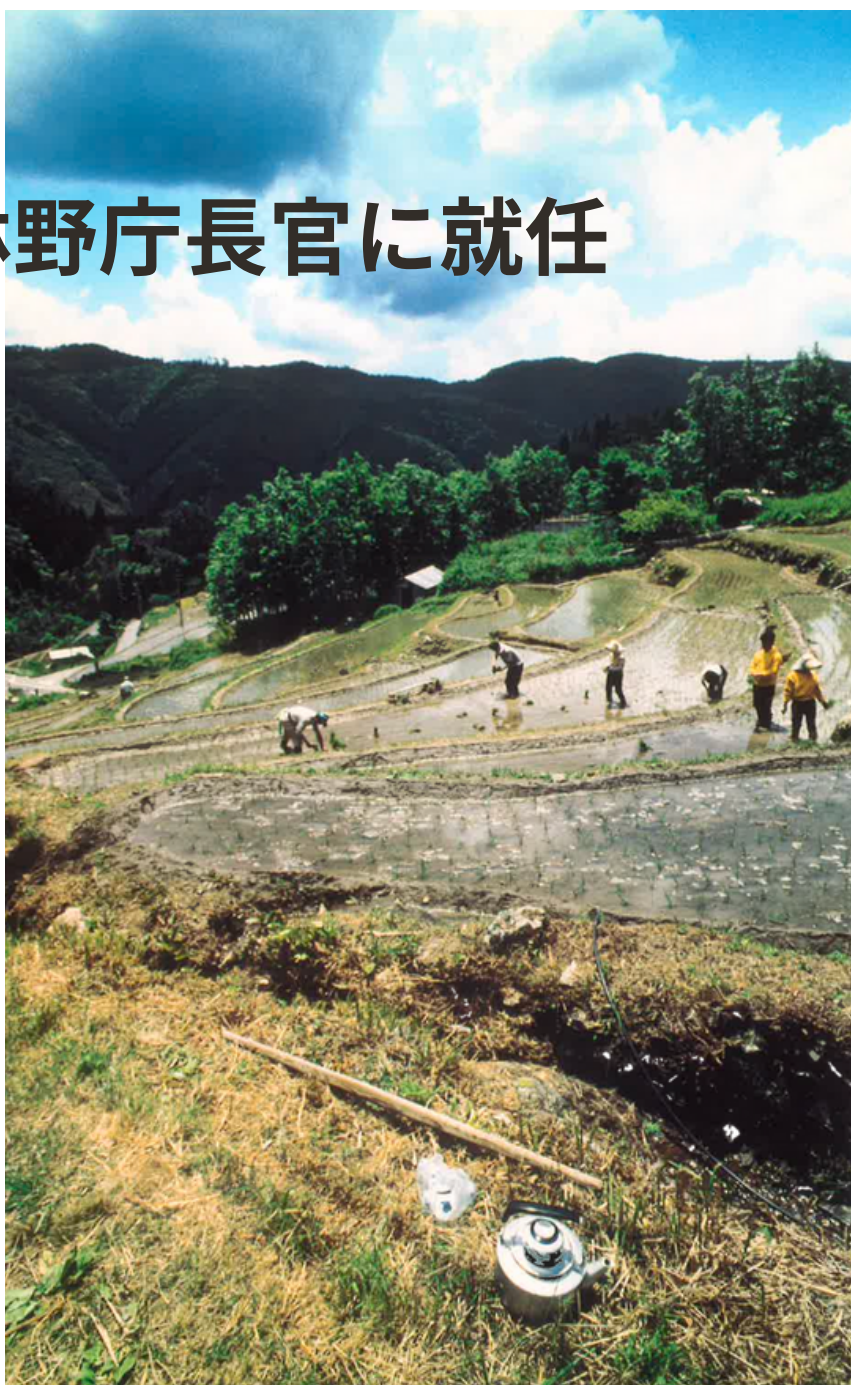
ゆずはら地域おこし協力隊/KIRecub 代表 下村 智也 -Tomoya Shimomura-

高知県高知市出身の地域おこし協力隊2年目。両親の出身が梶原町ということもあり、家族3人で広島から移住してきました。協力隊で技術を学ぶ傍ら『KIRecub-きりかぶ-』を立ち上げ、造林・精油・森林イベントなど様々な事業に取り組んでいます。

青山さんが林野庁長官に就任

ご記憶の方も多数いらっしゃるでしょう。若き日の林野庁長官を。栲原と所縁（ゆかり）の深い方です。

青山豊久さんは林野庁と栲原町が交わした「職員交流協定」の第一号として着任し、2年間勤務されました。約30年前のことです。当時の役場は千枚田の保存に注力していました。青山さんは農林水産省とも折衝して、全国初の棚田オーナー制度の創設（1992年・平成4）に力を発揮してくれました。林野庁（農林水産省）に帰られてからも繋がりは続き、『栲原町鎮守の森づくり条例』や『栲原町森林づくり基本条例』など、町の林業施策、特に条例づくりにアドバイスをいただきました。



【写真】千枚田 瑞穂の国を救う より引用

もっとFEATURE-フィーチャー-

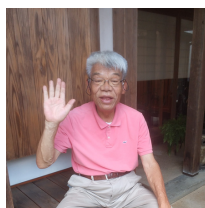


林野庁長官
青山豊久 -Toyohisa Aoyama-

栲原町における、全国初の棚田オーナー制度の創設（1992年・平成4）に力を発揮していただくなど、栲原とゆかりの深い方。令和5年7月に林野町長官に就任。

若かりし頃の青山氏

今回のREPORTER-リポーター-



栲原令和の森林づくり協議会「ReMORI」会長
笹岡高志 -Takashi Sasaoka-

高知市生まれの73歳。高知放送を退職後、週2回のペースで、栲原町を往復。8年が経過。栲原町産業担い手育成塾長（森林づくり）を経て、栲原令和の森林づくり協議会長。子ども3人、孫6人。拙宅は時々、孫たちで大賑わい。本日は静かです。